

1998年 夏

愛隣館研修センターニュース

第41号

〒 612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail :Dayservicecenter.Airin@ma2.seikyoku.ne.jp 振替 01020-5-39321

編集発行人：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター

おいでよ!ほしの子クラブへ!

愛隣館研修センターの一週間は、月曜日朝の「ほしの子クラブ」で幕を開けます。「ほしの子クラブ」って何?と思われる方も多いでしょう。それでは順を追ってご説明いたしましょう。

「ほしの子クラブ」は基本的に、学齢期前のお子さま達を対象にした楽しい遊びの会といえるでしょう。そして、その楽しさの中に、イエス・キリストの“愛”の精神が息づいているのです。

具体的にどんなことをしているかというところ・・・

「センセイ!オハヨウ!!」と、毎週元気に子どもたちが通ってきます。所狭しと走り回る元気一杯の子。お母さんのズボンの裾を持ちながらそーっと様子をうかがっている恥ずかしがり屋の子。礼儀正しい子?。どの顔をとってもとても個性的です。まずはお礼拝。ピアノの音を聞きながらお心を静め、季節の賛美歌をうたいます。そして、お話。



紙しばいあり、絵本あり、人形を使った語りかけあり。時に?お席をた

ってウロウロする子もいますが、楽しい時間です。



そして、礼拝が終われば、待ちに待ったお遊びのひととき。ブロックや粘土あそびに夢中になったり、牛乳パックや空き箱、折紙といった何気ない材料を使ったミニ工作はちょっと真剣。かと思うとエア・トランポリンで思いっきり汗を流したり。今年度からは、同一敷地内にある野の百合幼稚園の「子育て支援ステーション」の一環として、月に一回園庭をお借りして、元気一杯外遊びを楽しんだりもしています。

限られたスペース、限られた時間で、子どもたちの関わりが十分とはいえませんが、それでもみんな、毎週楽しみに「ほしの子クラブ」に通ってきてくれています。このクラブでお友達や、スタッフ等がお互いにふれあい、やさしい心と平和を大切に出来る人に、共に成長していけたらいいなあと思っています。皆さんも是非、気軽に「ほしの子クラブ」をのぞきにきてください。お待ちしております。(め)

「デイケア」の中心

愛隣デイサービスセンターの事業の一つに、「デイケア事業」があります。養護学校を卒業した後、通所の授産施設や作業所等に毎日通うことが出来なくて、在宅生活を余儀なくされている、知的と身体の重複障がいを持つ方々を対象に行っています。

一昨年より受け入れを始め、今年度からは三名の利用者が毎日入れ替わりで、センターにやって来れています。最古参のYさんは二十才の辛いモノ大好きなピジンダー。一九才のKくんは消防関係ならおまかせのオシャベリダー。十八才のMくんは、大きな音やくしゃみの音がだい好きな、ピックリダー。三人とも個性豊かな素敵な利用者です。今回はKくんの一日の様子を通してデイケアのご紹介をさせていただきます。

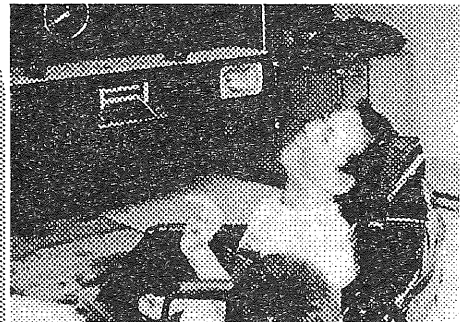
昨年の春に呉竹養護学校を卒業したK君。重度心身障がいの者の地域生活支援活動を展開されてきた『えのきの家』のメンバーでもある彼との出会いは、昨年10月のことでした。月2回の入浴サービスを利用していただけでしたが、今年の3月からデイケアのメンバーとして、週に2回当センターにやって来ます。それでは、K君の一日をのぞいてみましょう。

送迎車で自宅まで迎えに行くと、笑顔で『お・は・よ・う・ご・ざ・い・ま・す』と、ゆっくりていねいにあいさつをしてくれるK君。興奮のあまり体に力がいってしまい、車いすにのせるのにひと苦労しますがこれが彼なりの喜びの表し方の一つなのです。車の中では、彼が前日に観たTVドラマや好きな女優などの話に熱中そうこうしているしているうちに、センターに到着します。

彼は、その日に自分のしたいことを決めてきています。よほどのことがないかぎり、「消防署へ行きましょう!」と提案するので、午前中は散歩がてら消防署へLET'S GO!防災関係のことなら何でも

消防だーい好きー!

デイケア担当スタッフ 井桁光



(消防車の前でご満悦のKくん)

こいのKくんは、消防車を見るだけで大喜び!ときに、消防車や救急車が緊急発進したらもう大興奮!!たまに消防署の職員さんが、救急車や消防車の説明をしてくれたり、いろんな質問にも答えて下さる時には、超Happy!!!

なぜ、消防関係に彼がこんなにも興味を持っているのか不思議に思われるかもしれません。K君は、自分の体を自分の思うように動かせないので、地震・事故・火事など生命の危険を脅かすことには過敏なほど神経を使います。(阪神・淡路大震災の当時はニュースを見て体調を崩してしまう程一母談)ですから、自分の身を守ってくれる防災に関することには、特に注意をはらっているようです。

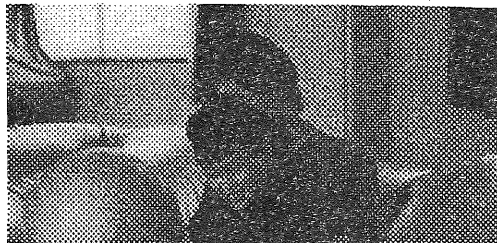


(Mくんお茶おいしい? 「あ〜!」)

簡単ではありますが、Kくんのデイケアでの生活をほんのちょっと紹介させていただきました。

これからも、KくんをはじめYさんMくんが、自分たちの個性を存分に発揮しつつ、いきいきと地域の中で、暮らしていける一助となりたいと願っております。

午前中の散歩から帰ると昼食の時間です。デイサービスを利用している人達と一緒に食べます。好き嫌いのないKくんは、いつもきれいにたらいげます。昼食後は再び消防署へ出かけることもあれば、図書館へ防災関係の本を見に行ったり、あるいはセンターのコンピューターで気になる女優(りょう)の情報を得ようとインターネットにも挑戦しています。



(エアーマットでご機嫌Yさん)

Q: バリアフリーという言葉はどのような意味ですか?

A: バリアフリー (barrier free) とは、障がい者が生活していく上で、障壁 (=バリア) となるものを取り除いていくという考え方です。

総理府編の『1995年版 障害者白書ーバリアフリー社会をめざして』の中には次のような「4つの障壁」という考え方が提示されています。

“障がい者を取り巻く社会環境においては、①交通機関、建築物等における物理的な障壁②資格制限等による制度的障壁③点字や手話サービスの欠如による文化・情報面での障壁④障がい者を庇護されるべき存在ととらえる等の意識上の障壁がある”と指摘しています。確かに、日本の今の社会には、障がい者が地域で暮らしていくときに、上記のよう

福祉のQ&A

に4つにまとめられるような“バリアー”が、多々存在します。特に、4番目の『意識上のバリアー』は、障がい児・者との出会いの“場”がないと、なかなか崩せない壁かも分かりません。しかし、この『意識上のバリアー』はなにも「障がい者」といわゆる「健常者」との間だけにあまる問題ではありません。「障がい者」同士においても、その障がいの違いによってお互い理解し合える関係をつくりにくくしていることもあります。

そのように考えると、私たち一人一人が具体的な人との触れ合いを通して「心のバリアー」を取り除き、お互いの違いを理解し、尊重するところから、バリアーフリー社会へと変革していけるのではないのでしょうか。

98夏期献金のお祝い

—これからの“地域”を見据えて—

当センターが、この向島の地に誕生してから、早くも19年が経過しようとしています。今日まで、皆様方のご理解とご支援によって支えられ、活動を続けることが出来たことを、心より感謝します。

これまでも、この〈地域〉の中で「障がい」を持つ方、お年寄りや子どもたちが安心して暮らしていくための手助けとなれるよう、色々な人々と様々な活動に取り組んでまいりました。その中から具体的なひとつの事業として、身体「障がい」者デイサービス事業を展開することが出来るようにもなりました。

そして、それらの活動ひとつひとつを通して、またその中で様々な出会いから、〈地域〉というものをキーワードにした生活支援システムと呼ぶべきものの必要性を改めて再認識するにいたりしました。今後もこの視点に立ち、新しい活動、事業を展開していきたいと考えています。そのためには皆様方のさらなるご理解とご支援が必要不可欠なものとなってきます。

これまでも皆様方には多額の献金をして頂いているにもかかわらず、新たなお祝いをさせて頂くのは、誠に恐縮ですが、右記のような趣旨をご理解くださり、ご協力をよろしく願います。

《夏期献金・要項》

目的

当センター増改築にかかる借入金の返済、および今後の事業展開に備え、地域福祉の向上に寄与するため。

夏期献金・目標金額

3,000,000 円

※ 口数、金額ともに任意です。

送金方法

※ 以下の口座をご利用ください。

郵便振替

01020-5-39321

口座名：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター

☆お知らせ

▽愛隣館研修センターは、八月十一日～十六日まで夏期休館日とさせていただきます。

◇当センターに事務局をおくアジア国際夏期学校のセミナーがベトナムに行われます。センターのスタッフも数名参加の予定。お土産（話）に乞うご期待を！

★編集後記

▼パソコンでの新聞編集にもようやく慣れてきました▼と早く言えるようになりたいです▼いつもの日になるのやら？▼暑い日が続いています▼万全な体調で夏をのりきりたいたいものです▼ワールドカップが終わるまでは無理かな（ひ）